

科目名	国際メディア論特講	担当者	ヤスエ 安江 ノブオ 伸夫	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講座は、民主主義社会を維持する上で不可欠な情報やメディアの特質を修得（一般目標(GIO)）することにより以下の能力を身につけることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>SNS 時代の現代もメディアが戦争に加担した戦前も、メディア・政治権力・民衆の関係性は変わっていない。その情報社会の特質を理解する。玉石混交の情報の中から必要・有益な情報を見抜く方法を修得する。政治や社会に対する疑問に声を上げる高い倫理観を創造する。「失敗の歴史」を繰り返さないために必要な認識を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>①民主主義社会の維持で、ジャーナリズムが果たすべき役割を説明できる。(知識・想起)</p> <p>②政府や政治権力・経済発展・ジャーナリズムを関係づけて説明できる。(知識・解釈)</p> <p>③日本と米国、現代と戦前の、メディア状況に応用し、説明できる。(知識・問題解決)</p> <p>④メディア（新聞から SNS）、社会形成、政治権力の変容を測定する技能が得られる。(技能)</p> <p>⑤政治体制やメディア環境の異なる社会とのコミュニケーションに必要な態度が身につく。(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】【学修方略 (LS)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本教材及び参考図書等を熟読する（自習）【SBO①&②】 課題に沿って、事例やデータを収集し、問題点を抽出、分析する（自主研究）【SBO②&③】 抽出した問題点を論ずるに必要な文献・資料を検索・整理し、それに対する考え方をレポートとしてまとめる（レポート作成）【SBO②&③&④】 上記の過程で、manaba folio の掲示板機能を利用した受講生同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での、教員と受講生とのディスカッション、メールなどで疑問点に関し、相談・質問する。(ディベート)【SBO②&③&④&⑤】 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>課題レポート 1 本につき最低 45 時間の学修時間を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本教材・参考文献の読み込み、データの探索：20 時間 レポート執筆：10 時間 レポートの推敲、教員の添削指導：15 時間 <p>1 科目 4 単位に対し、45 時間×4 の時間が必要ということになる。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材 1 の「草稿」は、レポート課題 1 は第 11 回（7 月中旬）で、課題 2 は第 13 回（7 月下旬）で提出。「最終稿」は課題 1、課題 2 のいずれも「学事歴で定められた日」までに提出する。</p> <p>後期：教材 1 の「草稿」は、レポート課題 1 は第 11 回（1 月初め）で、課題 2 は第 13 回（1 月中旬）で提出。「最終稿」は課題 1、課題 2 のいずれも「学事歴で定められた日」までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポート内容を、問題設定・論理的展開・歴史的展開・問題提起の面から検討し、全体の記載方法、注・参考文献の適切性・記載方法、最新の研究の反映や自らの研究分野との関連性などを評価する。
	観察記録	20%	スケジュールの順守の度合い、メールの送受信の状況、質疑応答の内容などを勘案する。
履修者への要望	日本が海外からどう見られているかを知るため、習慣的に、ニューヨークタイムズ（ネット版で十分）の日本に関する記事を読むことを勧める。国内メディアはテレビはもちろん、新聞は左派の『朝日新聞』、右派の『産経新聞』、経済界よりの『日本経済新聞』を 3 紙読むことをすすめる。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンステール（奥村信幸 訳） 教材名： 教材名：『インテリジェンス・ジャーナリズム：確かなニュースを見極めるための考え方と実践』（ミネルヴァ書房、2015年）
	W・リップマン『世論』を意識した、現代米国のメディア状況の研究書だ。情報が発信源である政治権力や受け手の感情によってどう歪曲されて行くか。商品として消費される中で客観性はどう保たれるのかを考える。SNSでニュースがランク付けされ、ニュースの質が問われている。ジャーナリズムの問題点を学んで欲しい。
参考図書	谷口将紀『政治とマスメディア』（東京大学出版会、2015年） 芹川洋一、佐々木毅『政治を動かすメディア』（東京大学出版会、2017年） W・リップマン（掛川トミ子訳）『世論（上・下）』（岩波書店、1987年）
履修上のポイント	ジャーナリズムは権力や民衆・社会に内在する矛盾とどう戦うべきかを学ぶ。ジャーナリズムの舞台となるメディアを、政治権力は国民や民意を誘導し求心力を得ようとするときに使う。産業発展や経済活動のツールとしてもメディアは有用だ。だが国民に代わって権力を監視するのがジャーナリズムだ。問題意識を持たねば逆に権力によって使われ、不注意なオーディエンスやスポンサーが求めるモノだけを提供する。権力者が民衆に阿るポピュリズムを放置すれば、極端な場合、大義なき戦争に突き進むのにまた加担することになる。
レポート課題 1	基本教材の問題意識を踏まえ、政治権力やメディアによるポピュリズム、フェイクニュースにどう向き合っていくべきかを論ぜよ（3000字程度）。 留意点： 政治権力やメディアの問題に加えて、受け手の民衆のあるべき姿に留意する
レポート課題 2	最近の具体的事例（できるだけ1つ）を挙げて、日本の政治状況において有権者や政治家の間、メディア空間で起きていることを分析し論ぜよ（3000字程度）。 留意点： メディアのオーディエンス、有権者、消費者である私たちの問題に着目すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 坂野潤治 教材名： 『帝国と立憲 日中戦争はなぜ防げなかったのか』（筑摩書房、2017年）
	日本の戦争には当時のメディアに大きな責任があった。その背景には、国内で民主化＝普通選挙で増加した有権者が政治に発言を求め、世界に対しては「一等国」としての発言力強化と対外拡張を求めた国民の熱狂がある。政治やメディアが国民に阿り、軍部が利用した。最終的に立憲主義は帝国主義を止められず戦争に進んだ。
参考図書	朝日新聞社取材班『新聞と戦争』（朝日新聞出版、2011年） 筒井清忠『戦前日本のポピュリズム』（中公新書、2018年） 三浦瑠麗『シビリアンの戦争 デモクラシーが攻撃的になるとき』（岩波書店、2012年）
履修上のポイント	大正デモクラシーで一度は民主化が進んだ日本で、戦争にメディアが加担していった背景を学ぶ。現代の報道を見る視点に生かして欲しい。富国強兵を目指した政府や政治家は民衆の感情に阿るポピュリズムを利用する。メディアを使い国民を誘導し動員する。メディア報道は民衆の愛国心を高揚させる。民衆は弱腰の政治家やメディアを批判するようになる。メディアの商業主義がジャーナリズムを鈍らせる。軍部は軍事行動を拡大させ正当化した。
レポート課題 1	基本教材に書かれた、大正デモクラシー（一種の民主化）の進展で、集会やデモにメディア報道が方向付けられたことに注目しながら、戦争の背景にある民衆の力について論じなさい（3000字程度）。 留意点： 当局要請に従ったメディアの背景に販売部数増、すなわち国民の熱狂があることに留意。
レポート課題 2	「ポストトゥルース」という感情が事実よりも優先される社会現象は最近の事ばかりではない。戦前の教訓を参考にしながら、今の時代状況を述べよ。（3000字程度） 留意点： 戦前とは異なる新しい問題点が現代にはある。民主主義の中で何ができるかに留意する。

基本教材 1

第 1 回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①（通読）を行う。
第 2 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第 3 回	教材に基づく学修③を行い、レポート課題 1 のテーマを考察する。
第 4 回	教材に基づく学修④を行い、レポート課題 1 の関連参考図書を渉猟する。
第 5 回	教材に基づく学修⑤を行い、目次を作成する。
第 6 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、レポート作成までの工程表を再検討する。
第 7 回	教材に基づく学修⑦（通読）を行い、レポート課題 2 のテーマを考察する。
第 8 回	教材に基づく学修⑧を行い、リポーレポート課題 1 のト課題 1 と課題 2 の関連を考察する。
第 9 回	教材に基づく学修⑨を行い、レポート課題 2 の関連参考図書を渉猟する。
第 10 回	教材に基づく学修⑩を行い、レポート課題 2 の目次を作成する。
第 11 回	レポート課題 1 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 12 回	レポート課題 1 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 1 を作成する。
第 13 回	レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 14 回	レポート課題 2 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 2 を作成する。
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 の最終稿を提出する。

基本教材 2

第 1 回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①（通読）を行う。
第 2 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第 3 回	教材に基づく学修③を行い、レポート課題 1 のテーマを考察する。
第 4 回	教材に基づく学修④を行い、レポート課題 1 の関連参考図書を渉猟する。
第 5 回	教材に基づく学修⑤を行い、目次を作成する。
第 6 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、レポート作成までの工程表を再検討する。
第 7 回	教材に基づく学修⑦（通読）を行い、レポート課題 2 のテーマを考察する。
第 8 回	教材に基づく学修⑧を行い、リポーレポート課題 1 のト課題 1 と課題 2 の関連を考察する。
第 9 回	教材に基づく学修⑨を行い、レポート課題 2 の関連参考図書を渉猟する。
第 10 回	教材に基づく学修⑩を行い、レポート課題 2 の目次を作成する。
第 11 回	レポート課題 1 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 12 回	レポート課題 1 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 1 を作成する。
第 13 回	レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 14 回	レポート課題 2 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 2 を作成する。
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 の最終稿を提出する。